

100歳おめでとございます



川本さかゑさん
(砂畑)

大正8年9月24日生

ご自宅を訪問すると、「お忙しい中わざわざありがとうございます。」と深々とお辞儀をして迎えてくださったさかゑさん。

国の老人の日の記念事業として、内閣総理大臣からのお祝い状を町長が代読しました。

また、町からのお祝い状と記念品をお渡しし、町長から「100歳おめでとございます。」と声をかけられると、「こんなに大層なお祝いをありがとうございます。」と何度もお礼の言葉を仰っていました。

さかゑさんは現在デイサービスに通っており、そこで小さい頃からの趣味の習字をされているそうです。「下手ですけれども」と照れた表情で、今までに書かれた作品も拝見させていただきました。

とてもお元気なさかゑさんに長寿の秘訣を尋ねると、「楽しく暮らすことですかね。おかげさまで毎日が本当に幸せです。」と仰っていました。

町長から「町の最高齢を目指して、元気に長生きしてくださいね。ぜひ習字で110歳と書いてください。」と言われると、「頑張ります。」と答えてくださいました。

95歳おめでとございます



中野さつゑさん
(本郷北)

大正13年9月7日生

ご自宅を訪問すると、「お忙しいところよく来てくださいました。」と深々とお辞儀をして迎えてくださったさつゑさん。

現在、デイサービスに週3回通われているようで、お友達とお喋りするのが楽しいのだと笑顔でお話しになりました。

お体の調子について何うと、「膝が少し痛みますが、ほかは何ともないです。歯も痛み知らずで、全部自分の歯なんですよ。」とお話しになり、「食べることが日々の楽しみで何でも食べます。」と仰いました。

息子さんも、「びっくりすることに、今でもスルメを食べることができんですよ。健康でいてくれて本当にありがたいです。」とお話しになりました。

最後に、さつゑさんは「こうして健康でいられるのも、よくしてくれる家族のおかげです。本当に幸せです。」と仰っていました。



國枝やす子さん
(白鳥)

大正13年9月19日生

現在、西美濃さくら苑にいらつしやるやす子さんを訪問すると、お誕生日会が開かれていました。

たくさんのご友人の前で、町長からお祝い状を読み上げられ、「95歳おめでとございます。」と声をかけられると同時に記念品を受け取られると、少し気恥ずかしそうな笑顔を見せてくださいました。

やす子さんはご飯よりもパンが好きとのこと、昼食と夕食には必ずあんぱんを食べられているそうです。

普段は塗り絵や習字などをされて過ごされているようで、カラオケなどもご友人が歌うのをよく聴いているとのことでした。

お誕生日会に出席していたご友人方から、「これからも元気でいてね。」と声をかけられると、「しつかり食べて頑張ります。」と答えられました。



樋口 亮吉さん
(北池野)

大正13年10月5日生

町長がお祝い状を読み上げ、記念品をお渡しすると、照れくさそうな表情でお辞儀をされた亮吉さん。

毎日の日課で新聞や本を読み、心に留まったことは用紙に書き留められ、世の中のさまざまに関心を持たれています。

今までの人生の中で一番嬉しかった出来事は、息子さんが東京の大学に合格されたことで、驚いたことについては、「戦争の時代を思えば、今こうして平和で豊かな時代になったことが驚きです。」と教えてくださいました。

また、95歳のお誕生日を迎えられたことについては、「病気も何度かしましたし、まさか95歳まで生きられるとは夢のようです。家族の助けがあつてこそだと思っています。」と感謝の思いを述べられました。